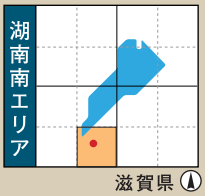
史跡
国指定

堂ノ上遺跡（どうのうえいせき）

大津市神領三丁目　昭和53年3月14日指定



大津市瀬田は、古代近江の政治の中心地として栄えました。堂ノ上遺跡は、勢多橋を渡り近江国庁へ至る官道を見下ろす台地上に営まれた官衙の遺跡で、出土遺物や立地から勢多駅（せたのうまや）の可能性が高いと考えられています。またこの地域には、奈良・平安時代の官衙の遺跡が密集しています。

当時のできごと	
764年	藤原仲麻呂の乱
847年	円仁中国より帰国
905年	古今和歌集が編纂される

堂ノ上遺跡の概要

堂ノ上遺跡は、瀬田川の東岸の、瀬田川や官道を見下ろす丘陵上にあります。また、この遺跡の周辺には惣山遺跡、青江遺跡、野畑遺跡などの古代官衙遺跡が集中しており、この地域が、近江国庁を中心とした、古代近江の政治経済の中枢をなしていたことがよく分かります。

遺跡は、近江国庁と同様に8世紀中頃から10世紀にかけて存続し、最初に瓦葺き礎石建の建物が建てられ、後に掘立柱の建物に建て替えられます。

出土した瓦の中には「承和十一年六月」の年号が刻されたものがあり、西暦844年には間違いなく瓦葺きの建物が建っていたことがわかります。

発掘調査の成果

これまで行われた発掘調査の結果、当初、瓦葺きの建物が、丘陵の広い範囲に建てられていたことがわかっています。特に西側には、築地塀で囲まれた、遺跡の中心となる正殿、後殿、脇殿の建物群がありました。これらはいずれも瓦葺きの建物で、奈良時代の後半から平安時代前期にかけて存続していたようです。その後、瓦葺きの建物はなくなり、やや規模を縮小した、掘立柱建物による整備が行われます。ただし、この時には築地塀はなくなって、簡単な塀で仕切りをしていたようです。この時にあった南北に長い建物は、内部を細かく仕切った特異な構造です。これらの掘立柱建物は平安時代の中頃（10世紀前半）まで存続し、その後に廃絶し、現在に至っています。



掘建柱建物跡（SB-4）及び礎石建ち建物（SB-1）（北から）

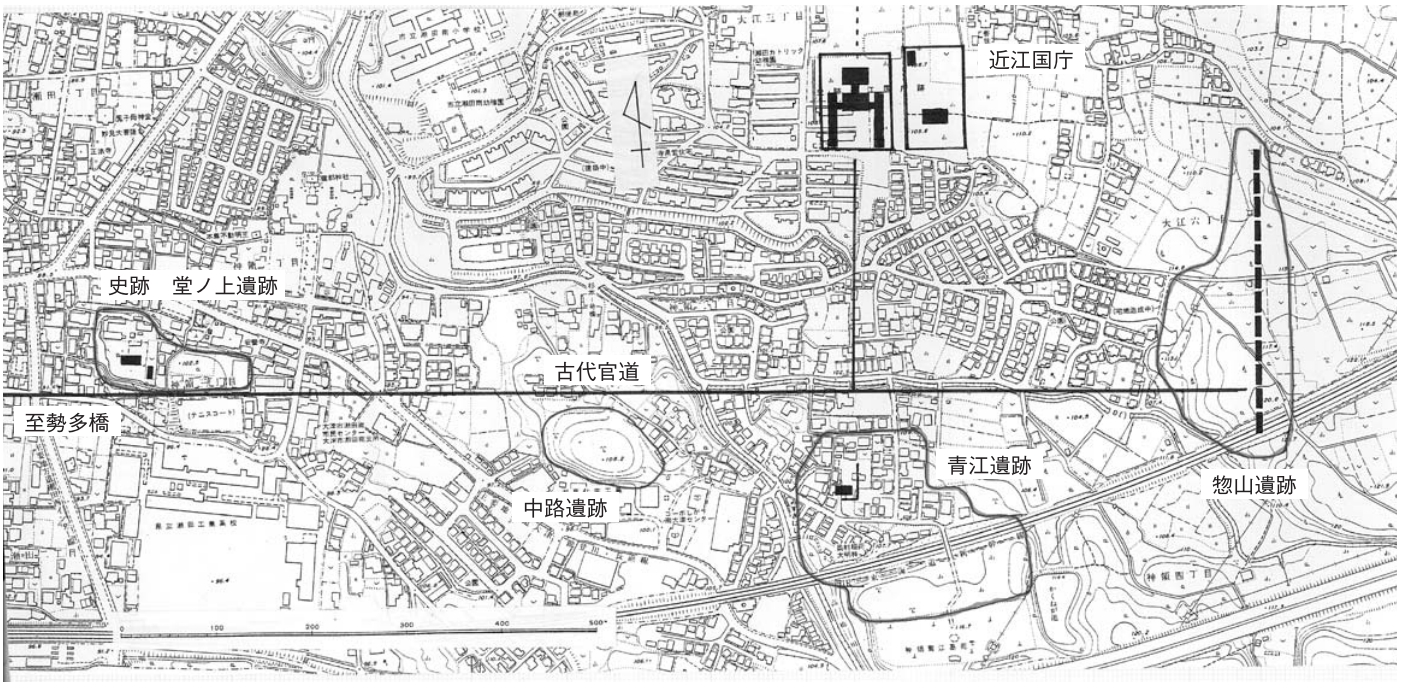


承和11年銘の瓦

遺跡の特徴

堂ノ上遺跡の南には、細い道が東西に通っています。この道を西にたどると瀬田川に当たりますが、ここから、平成元年に古代勢多橋の遺構が発見され、この細い道が、実は、古代の東山道（東海道）である可能性が濃厚になりました。さらにこの道を東にたどると、近江国庁の大倉庫群の惣山遺跡に行き着きます。また途中で直角に北に曲がると近江国庁の政庁に行きあたり、古代東山道推定路に重なります。

堂ノ上遺跡は、この官道を見下ろす位置にあり、古代の交通と密接な関わりを持つ官衙であることがうかがわれ、延喜式に、駅馬三十疋を擁する大駅として登載されている、勢多駅（せたのうまや）である可能性が高いと考えられています。




堂ノ上遺跡遠景（中央奥木立が遺跡）（勢多橋から）

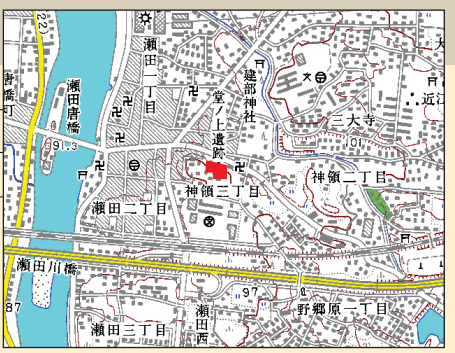
関連する文化財

近江国庁跡（大津市）	学習シートNo.008
惣山遺跡（大津市）	学習シートNo.008
唐橋遺跡（大津市）	現在の唐橋の上流から発見された、7世紀代の勢多橋の遺構

もっと深く知りたい

大津市歴史博物館	☎077-521-2100　大津市御陵町2-2
大津市埋蔵文化財調査センター	☎077-527-1170　大津市滋賀里1-17-23
滋賀県埋蔵文化財センター	☎077-548-9681　大津市瀬田南大萱町1732-2

堂ノ上遺跡へのアクセス　JR琵琶湖線　石山駅下車
京阪電鉄石坂線　唐橋前駅下車



【参考文献】〔図説日本の史跡〕同朋舎　〔堂ノ上遺跡発掘調査報告（滋賀県埋蔵文化財調査年報）〕滋賀県教育委員会
〔大津の文化財〕大津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月